

酸化分解性マルチ・ 生分解性マルチの効果確認試験

JAゆうべつ町

遠藤 義美



試験目的

酸化分解性マルチ・生分解性マルチの効果確認

試験作物 及び品種

スイートコーン

試験資材 及び数量(規格)

畑楽マルチ(0.018mm×110cm×400m) 透明 有孔 1本
コーンマルチII(0.015mm×95cm×400m) 透明 有孔 1本

慣行資材

Bio-Pal(0.012mm×110cm×400m) 銀ネズ 有孔

栽培方法

播種日
5月下旬

【栽植密度】	【栽植密度】
畝幅：60cm	畝幅：45cm
株間：33cm	株間：30cm
(畑楽マルチ、Bio-Pal)	(コーンマルチII)

資材使用期間

5月～10月



試験結果

- (1)作業性について(慣行品との比較)
慣行区、試験区共に特段、問題なく展張作業を行えたが、コーンマルチIIは95幅で穴に土がかぶるため展張スピードを上げることができなかった。
鋤き込みは問題なく行えた。
- (2)作物の生育状況または、収穫への影響
草丈、葉数などは慣行区、試験区共に問題なかった。
- (3)資材の強度・耐久性・崩壊性について
畑楽マルチは分解が遅かったが、ロータリーで鋤き込み作業は問題なく行えた。
- (4)促成・抑制効果について
試験品、慣行品とも問題ない。
- (5)保温効果について
慣行品、試験品共に差は感じなかった。
- (6)雑草・病害虫の発生について
雑草は特に問題にならなかった。

モニター感想

作業性を考えると95幅のマルチより110幅の方が展張スピードが上がるため良いと思う。畑楽マルチは分解が遅かったがロータリーを使って、きざみながら鋤き込みはできたため問題ないと思う。価格が安いいため、今後の使用を検討していきたい。

JA担当者の感想(生産資材課 内山係長)

マルチ代が近年、上がってきているため、安価なマルチは今後、普及していくと感じている。畑楽マルチは分解が遅いと聞いていたため、不安もあったが、鋤き込み作業が問題なく行えたのはよかった。土中でも分解が進むとのことなので、今後の分解の度合いを調査していきたい。

今後の使用について

継続して使用したい
畑楽マルチの分解が遅く、心配な面があったが、鋤き込みはできたため使用可能だと考えられる。

1 栽培システム

2 敷設システム

3 製地フィルム

4 マルチ

5 不織布

6 育苗資材

7 防虫ネット

8 防草資材

9 ICT機器

10 その他